—販売店・設置業者様へ—
本書は必ずお客様へお渡しください。

KOITO®

上絵用電気炉

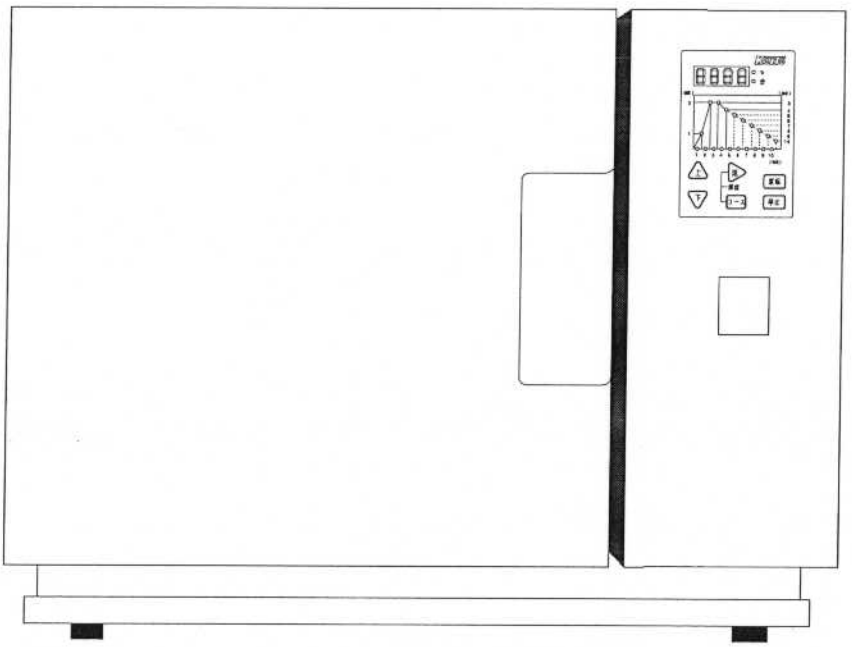
あ や　か

KCA-31NA

彩火®

取扱説明書

保証書付



もくじ

	ページ		ページ
安全上の注意	1	停電リカバリー機能について	17
設置方法及び保管場所	6	焼成回数表示機能について	17
ご使用上の注意	7	空冷ファンについて	18
各部のなまえ	8	電気炉のお手入れ	18
扉ロックについて	10	仕様	19
ご使用になる前に	11	定期点検	19
運転を開始する	12	修理を依頼される前に	20
運転中の操作	16	廃棄の方法	20
時間延長機能について	17		

安全上の注意

重要

この取扱説明書を必ずお読みになり、 よく理解した上でご使用ください。
ご使用になる方がこの取扱説明書をいつでも読めるようにしてください。

この説明書では、商品を安全に正しくお使いいただくために、必ずお守りいただくことを ⚠危険 , ⚠警告 , ⚠注意の表示によってお知らせしています。

⚠危険 この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険、または火災の危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。

⚠警告 この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性、または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容を示しています。

■お守りいただく内容の種類を、 次の絵表示で区分し説明しています。
（下記は、 絵表示の一例です。）

このような絵表示は、気をつけていただきたい 「注意喚起」 内容です。

このような絵表示は、してはいけない 「禁止」 内容です。

このような絵表示は、必ず実行していただく 「強制」 内容です。

危険

自分で分解・修理・改造を行わないでください

感電や発火したり異常動作をしてけがのおそがあります。

通気口や隙間にピンや針金などの金属物や、異物、指を入れないでください

感電 ・ やけど ・ 指の挟み込みなどのけがのおそれがあります。

焼成時には必ず換気をしながら焼成してください

初回焼成時にはにおいや有害なガスが発生するおそれがあります。

警告

定格15A以上のコンセントを単独で直接お使いください

他の器具と併用した分岐コンセントを使用したり、延長コードを使用すると、異常発熱及び他の器具が正常に作動しないおそれがあります。

電源プラグの刃・刃の取付面に付着したほこりは拭き取ってください

ほこりが原因で発火するおそれがあります。

電源コードを傷つけないでください

加工する ・ 無理に曲げる ・ 引っ張る ・ ねじる ・ 重いものを載せる ・ 挟み込むなどをすると電源コードが破損し、火災、感電の原因になります。

傷んだ電源コードや電源プラグ及びコンセントの差し込みが緩い時は使用しないでください

感電 ・ ショート ・ 発火の原因になります。
プラグ部分が高温になっていないか確認してください。

燃えやすいものや熱に弱いものを近づけないでください

畳 ・ じゅうたん ・ テーブルクロスなど敷物の上に置いたり、燃えやすいものやカーテン ・ スプレー缶を近づけると引火や破裂するおそれがあります。

子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで絶対に使わないでください

やけど、感電、けがのおそれがあります。

使用中に電源プラグを抜き差ししないでください

感電や火災の原因になります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください

感電や火災の原因になります。

漏電遮断器・D種接地工事(アース)を行ってください

故障や漏電の時に感電するおそれがあります。

電源コードを束ねたまま使用しないでください

コードが発熱し火災の原因になります。

炉内が高温の時は扉を開けないでください

やけど ・ 火災 ・ けがのおそれがあります。
棚板やL型支柱が割れて、くずれ落ちるおそれがあります。

焼成中は窓を開けて十分換気してください

絵具や転写紙および溶剤などからにおいや有害なガスが発生するおそれがあります。

破裂や発火、または有害なガスが発生する恐れがあるものを炉内に入れて運転しないでください

破裂や発火、 有害なガスが発生するおそれがあります。

使用しない時は電源プラグを抜いてください

絶縁劣化などで、感電 ・ 漏電 ・ 火災の原因になります。

電源プラグを抜く時は電源コードをもって引き抜かないでください

電源コードをもって引き抜くと感電 ・ ショートして発火するおそれあります。

壁などとの間はあけてください

上面と正面及び右側面を含む3面以上の周囲を100cmおよび底面のぞくその他の周囲を15cm以上あけないと、過熱して発火するおそれがあります。

空冷ファン、通気口をふさがないでください

火災の原因になります。

ほこりは定期的に除去してください

空冷ファンのファンガードなどにほこりがたまると、 火災の原因になります。

電源コードや電源プラグは通気口や温度の高い部分に近づけないでください
火災 ・ 感電の原因になります。

交流100V以外では使用しないでください
火災や感電の原因になります。

直射日光の当たるところで使用しないでください
過熱してやけどや発火するおそれがあります。

注意

雨や水のかかる場所、 湿気の多い場所で使用しないでください
感電や漏電の原因になります。

ヒータにさわらないでください
感電ややけどのおそれがあります。

作品や試験物、 及び棚板をヒータや断熱材にぶつけないでください
感電や漏電の原因になります。

不安定な場所や水平でない場所に置かないでください
落ちたり倒れたりしてけがや変形の原因になります。

開いている扉に、荷重をかけたり、 ぶら下がったりしないでください
本体の転倒や、落下してけがのおそれがあります。

本体の上に物を置かないでください
過熱して焦げたり、変形することがあります。

運転中及び運転終了後すぐに電源コードをコンセントから抜かないでください
空冷ファンが停止して本体表面及び扉部の表面温度が高くなり、 やけどのおそれがあります。 炉内温度が90℃以下になってから電源コードをコンセントから抜いてください。

炉内の収容物を取出す場合は、 炉内の温度が低くても火ばさみや耐熱手袋を使用して取出してください
やけどのおそれがあります。

扉の開閉は慎重に行ってください

指を挟み込んでけがのおそれがあります。

運転中および高温時は、取っ手部及び操作部以外の箇所に手を触れないでください

やけどのおそれがあります。

ペットを近づけないでください

ペットがけがのおそれがあります。 また、 本体や電源コードを傷めた場合、 故障または火災の原因になります。

停電直後は製品にさわらないでください

空冷ファンが停止して本体表面および扉部の表面温度が高くなり、 やけどのおそれがあります。

お願い

テレビ・ラジオ・アンテナ線などに近づけないでください

画像の乱れ、雑音の原因になります。
２m以上離してください。

設置方法及び保管場所

1. 設置場所及び保管場所には以下のような場所をお選びください。

☆水平なしっかりとしたところ　☆水気のないところ
☆雨や水がかからないところ　☆アース線が接続できるところ
☆振動，衝撃のないところ　☆ほこりなどの少ないところ
☆換気ができるところ　☆風通しの良いところ
☆耐荷重 70kg 以上のところ

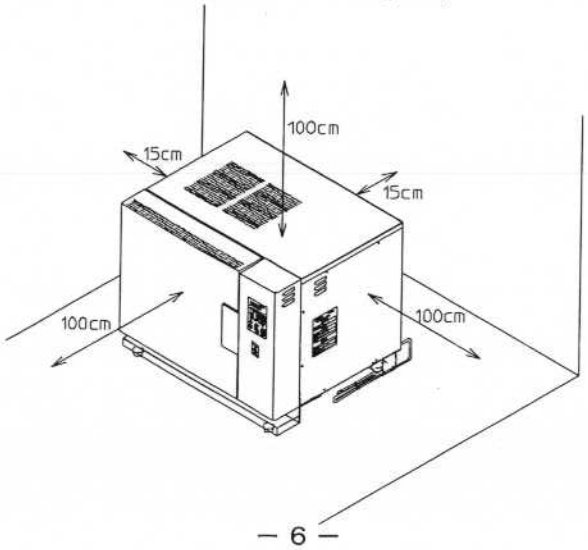
【注意】
横置き ・ 天地逆置きの禁止(段積みは２段まで)
畳･じゅうたん･テーブルクロスなど敷物の上に置かない

2. 本体の重量は約 51kg ですので、必ず 2 人以上でお運びください。
本体下部を持ってください。（取っ手や扉を持たないでください。）

3. アース線は必ず接続してください。
アース線に触れる時は、必ず電源プラグを抜いてください。

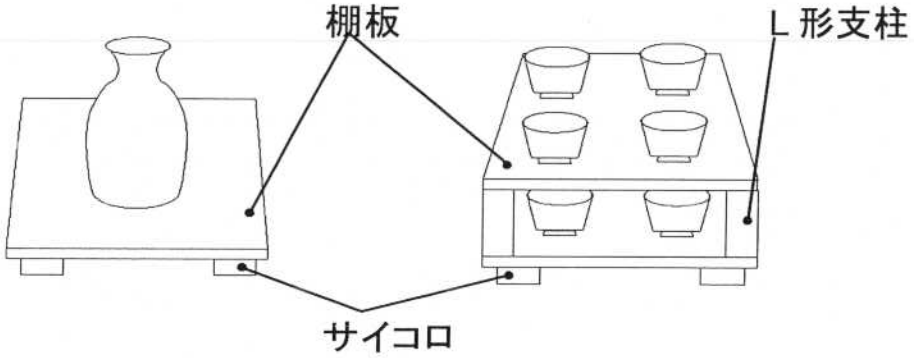
4. 15A 以上のコンセントを単独で使用してください。
・他の器具との併用や、延長コード、コードリールなどを使用すると、異常発熱および他の器具が正常に作動しないおそれがあります。
・コンセントの差し込みが緩くないことを確認してください。

5. 壁などとの間はあけてください。
・上面と正面及び右側面を含む 3 面以上の周囲を 100cm および底面をのぞくその他の周囲を 15cm 以上開放してください。



ご使用上の注意

1. 断熱材に絵具や溶剤などをこぼさないでください。
必ずサイコロと棚板などを敷いて絵具などをこぼさないようにご使用ください。
絵具などが断熱材に付着した場合は、断熱材を損傷し安全性及び性能に影響します。断熱材が損傷した場合は、運転を停止し電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店もしくは当社までご連絡ください。



2. かたまりや固形物を焼成しないでください。
粘土内の空気及び水蒸気が膨張し破裂するおそれがあります。

3. くり返して使用していると断熱材の表面にひびが入ることがありますが、ご使用には問題ありません。
（断熱材の損傷が大きくなった場合は、安全性および性能に影響します。販売店にご相談ください）

4. 電源プラグをコンセントに入れないと扉を開けることはできません。
（無理に開けないでください）

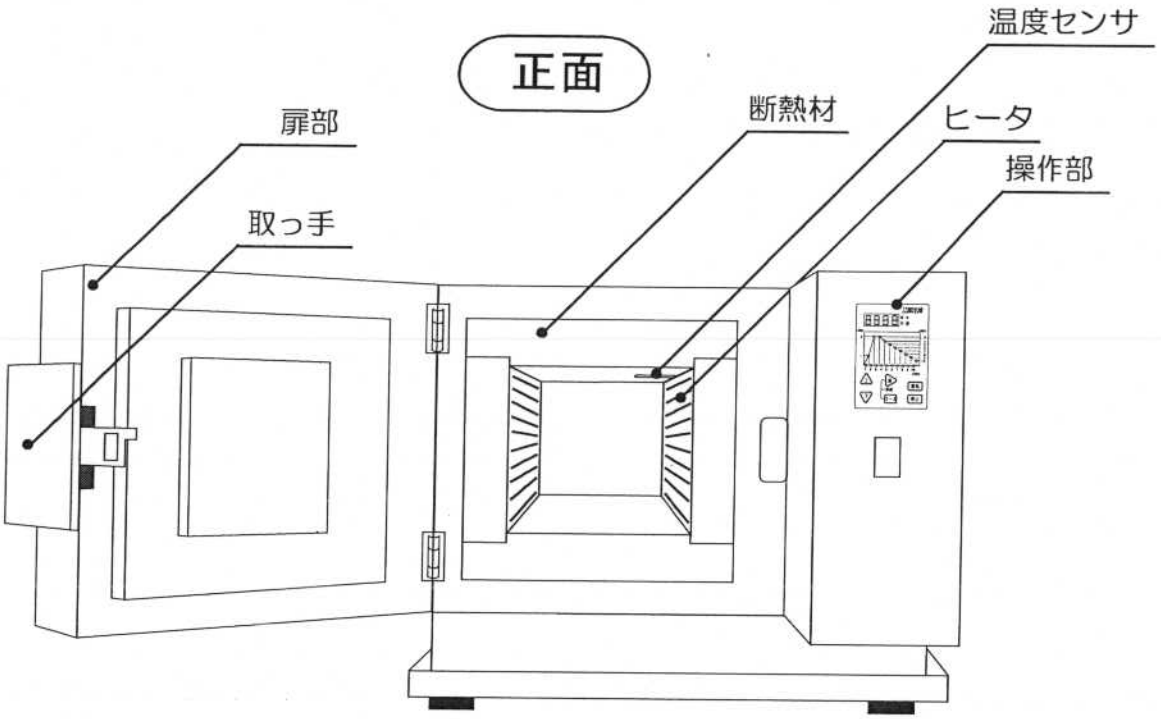
5. 初めに空焚きを行ってください。（11 ページをご覧ください）

6. 焼成時、電源プラグの部分が高温になっていないか確認してください。
（火災の原因になります）

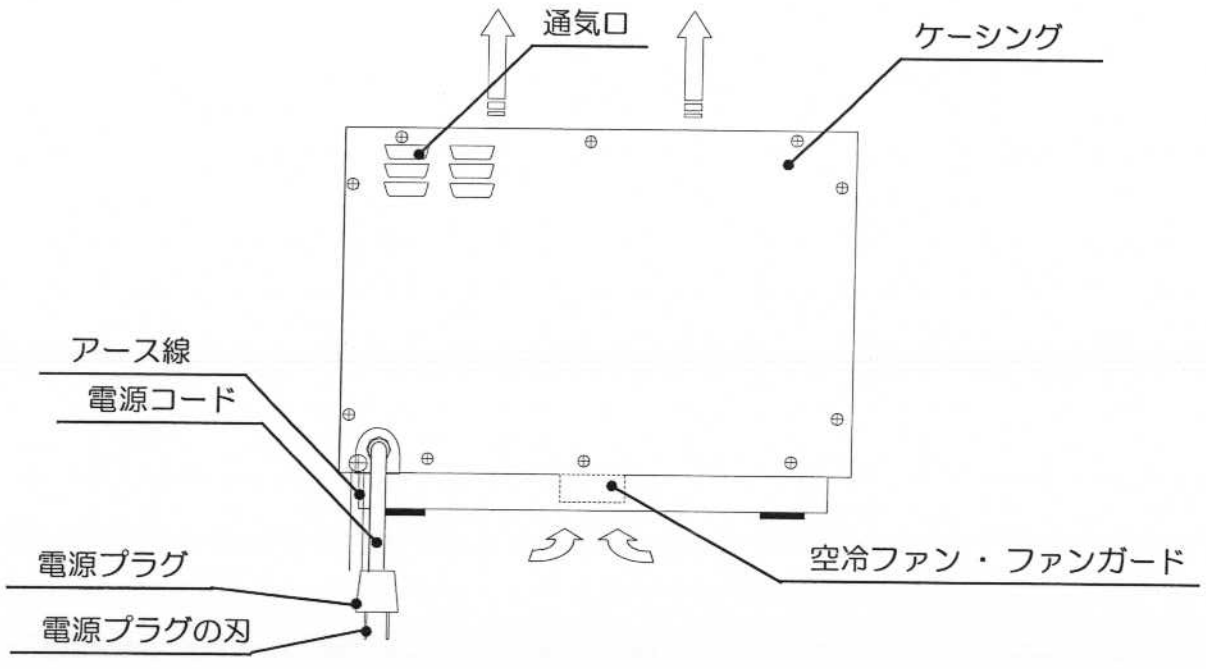
7. 焼成中は必ず換気を行ってください。
絵具や転写紙及び溶剤などを使用すると、有害なガスが発生するおそれがありますので、十分な換気を行ってください。また、取扱には注意が必要となります。

各部のなまえ

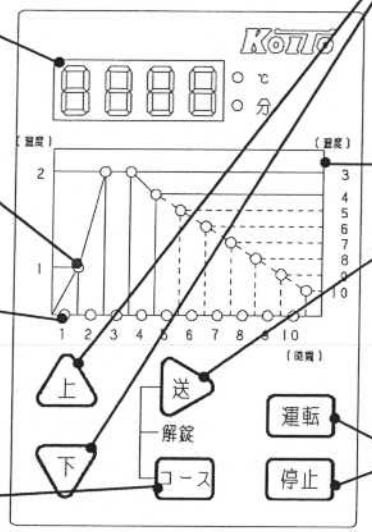
正面


温度センサ
扉部
断熱材
ヒータ
操作部
取っ手

背面


通気口
ケーシング
アース線
電源コード
電源プラグ
電源プラグの刃
空冷ファン・ファンガード

操作部



■数値表示部

■温度ランプ
温度の設定位置を示します。

■時間ランプ
時間の設定位置，または運転中の位置を示します。

■コースキー
プログラムの設定を行う時に使用します。

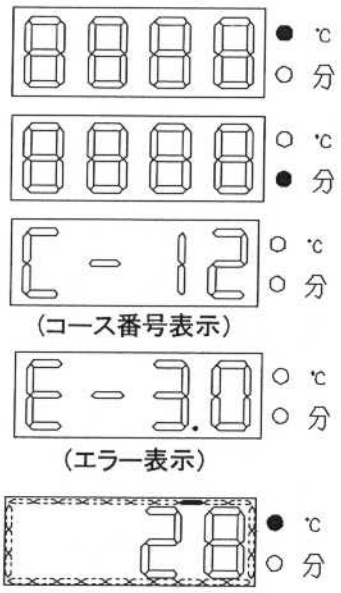
■上下キー
温度および時間の設定を行う時に使用します。
温度 ： 0～900℃(1℃単位)
時間 ： 0～1000分(1 分単位)

■パターン表示部

■送りキー
プログラムの設定 ・ 確認を行う時に使用します。

■運転／停止キー
運転の開始 ・ 停止を行う時に使用します。

数値表示部



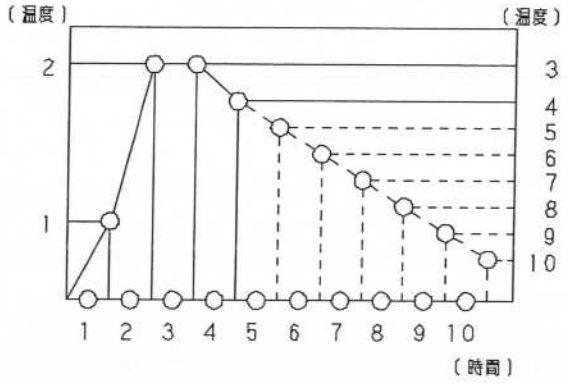
「℃」 のランプが点灯している時、 左側の数字は温度を表しています。

「分」 のランプが点灯している時、 左側の数字は時間を表しています。

「℃」、 「分」 のランプが消灯している時、 左側の数字は、 コースNo.やエラー番号を表示しています。

プログラム運転中は温度表示が点滅し、 左図の点線部分が左回転で点滅していきます。 プログラム運転終了時は「焼成回数」→「End」→「炉内温度」の繰り返し表示となります。

パターン表示部



時間１ ： １段階目の温度に達するまでの時間
温度１ ： １段階目の温度
時間２ ： ２段階目の温度に達するまでの時間
温度２ ： ２段階目の温度
・
・
・
時間10 ： 10段階目の温度に達するまでの時間
温度10 ： 10段階目の温度

扉ロックについて

安全にお使いいただくために、次の場合は扉がロックされます。
（無理に開けないでください）

・電源が入っていない時
・運転中の時
・停止中の時
　炉内温度が90℃より高い時　（炉内温度が100℃以上から下がってきた場合）
　炉内温度が100℃以上の時　（炉内温度が100℃未満から上がった場合）

注意

運転中に取っ手のレバーを操作した場合、 ランプが点滅し警告音 （ピーッ音が１回） が鳴ります。
この時は解錠状態ではありません。

ご使用になる前に

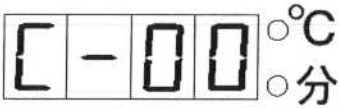
・初めてご使用の前には必ず空焚きを行ってください。

☆空焚きの方法

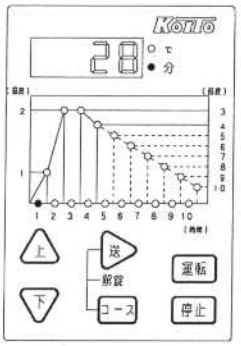
1．電源プラグをコンセントに差込んでください。
　電源を入れないと扉は開きませんので無理に開けないでください。

2．扉を開けて、 炉内に何もないことを確認してください。
　棚板、 サイコロも入れないでください。
　確認後、 扉を閉めてください。

3．**コース**キーを押して数値表示部を 「C－００」 にさせます。
　（**コース**キーを押す前に 「C－００」 が表示されていても**コース**キーを押してください）



4．**運転**キーを押します。

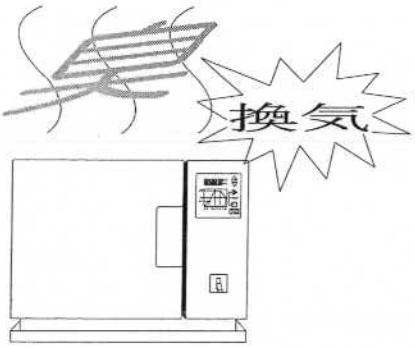


以上の操作が完了すると・・・

数値表示部が現在の炉内の温度を表示し、運転が開始されます。
時間ランプがすべて消灯すれば終了です。
（空焚き終了までに６時間かかります。 その後電源プラグを抜く場合は炉内温度が９０℃以下になってからにしてください）

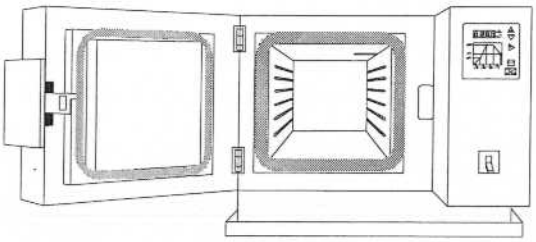
注意１

・初回焼成時にはにおい及びガスが発生しますので、必ず窓を開け十分換気をしながら空焚きを行ってください。
（初回焼成時、 濃度により有害になるガスが発生する可能性があります）



注意２

・空焚き終了後、断熱材に焦げが残りますが、製品の性能には問題はありません。



注意３

・焼成を重ねると周囲環境および釉薬などからの発生ガスの影響で電気炉ケーシング部分に錆びが発生します。 製品の性能には問題ありません。

運転を開始する

①固定コースで運転する

固定コースは、 プログラムの設定が不要でお手軽に焼成できます。

運転方法

1. 電源を入れる

電源プラグをコンセントに差込んでください。
電源を入れないと扉は開きませんので無理に開けないでください。
数値表示部が 「C-00」 となります。

2. 扉を開け作品・試験物を入れる（必ず棚板を敷いてください）

断熱材やヒータにぶつからないように注意して入れてください。
炉内温度が90℃より高い （もしくは100℃以上） 時は、 扉ロックがかかっていますので無理に開けないでください。 【扉ロックの条件はP10を参照】
扉を閉めます。

3. コースの種類を選択する

コースキーを押し、 **上下**キーでコースC－０１～C－１１のうち、 お好きなコースを選んでください。
コースの内容については、 裏表紙を参照してください。

4. 運転を開始する

コース選択後、 **運転**キーを押し運転を開始してください。
扉ロックがかかります。

5. 運転終了

設定したコースが終了すると、 時間ランプが消灯し、 「焼成回数」 → 「End」 → 「炉内温度」 の繰り返し表示となります。
また、 ブザー音 （ピッピッピ音） が鳴り終了したことをお知らせします。
①上記の繰り返し表示の状態で**停止キー**を押すと炉内温度表示のみとなります。
②上記の繰り返し表示の状態で**送キー**を押すと運転していたコースの設定を確認できます。
③上記の繰り返し表示の状態で**コースキー**を押すとコースNo. を表示します。
①～③を行うと繰り返し表示はキャンセルします。
炉内温度が90℃以下になるのを待ち、 扉を開けてください。

注意

- 仕上がりは、作品 ・ 試験物の数や位置によって変わります。
- 思うような仕上がりにならない場合は、 固定コースの値を参考にして自由コースに設定し、お好みに応じて時間、温度を調整してください。

②プログラムを設定して運転する（自由コース）

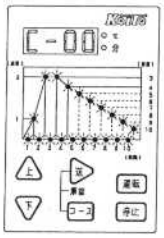
運転方法

1. 電源を入れる

電源プラグをコンセントに差込んでください。
※電源を入れないと扉は開きませんので無理に開けないでください。
数値表示部が 「C－００」 となります。

2. 扉を開け作品・試験物を入れる（必ず棚板を敷いてください）

断熱材やヒータにぶつからないように注意して入れてください。
炉内温度が90℃より高い （もしくは100℃以上） 時は、 扉ロックがかかっていますので無理に開けないでください。 【扉ロックの条件はP10を参照】
扉を閉めます。



3. コースキーを押す

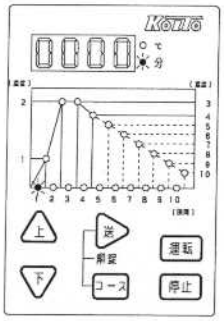
ランプが全点滅します。

4. コースを選択する

上下キーで設定したいコースNo.に合わせます。 （No.30～No.99）

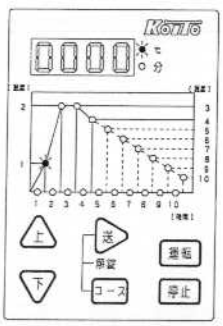
コース選択後、 **送**キーを押すと炉内温度が表示されます。
もう一度押すと次の設定に移ります。

5. 時間1を設定する



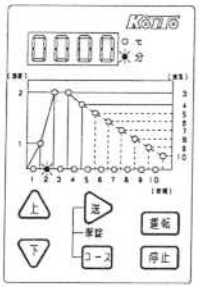
時間１のランプが点滅していることを確認します。
上下キーで設定したい時間に合わせます。 （0～１０００分）
設定後、 **送**キーを押して次の設定へ移ってください。

6. 温度1を設定する



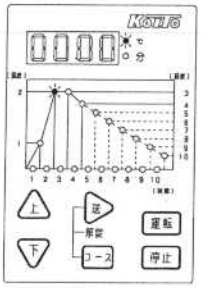
温度１のランプが点滅していることを確認します。
上下キーで設定したい温度に合わせます。 （0～900℃）
設定後、 **送**キーを押して次の設定へ移ってください。

7. 時間2を設定する



時間２のランプが点滅していることを確認します。
上下キーで設定したい時間に合わせます。（0～１０００分）
設定後、 **送**キーを押して次の設定へ移ってください。

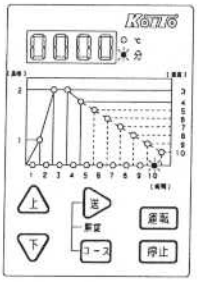
8. 温度2を設定する



温度２のランプが点滅していることを確認します。
上下キーで設定したい温度に合わせます。（0～９００℃）
設定後、 **送**キーを押して次の設定へ移ってください。

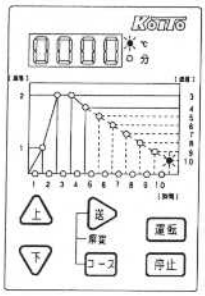
・
・（時間３～９及び温度３～９も同様）
・

9. 時間10を設定する



時間１０のランプが点滅していることを確認します。
上下キーで設定したい時間に合わせます。（0～１０００分）
設定後、 **送**キーを押して次の設定へ移ってください。

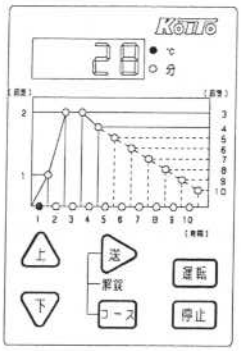
10. 温度10を設定する



温度１０のランプが点滅していることを確認します。
上下キーで設定したい時間に合わせます。（0～９００℃）

11. 設定を確定する

10.までの設定が終わりましたら「コース」キーを押してください。
「コース」キーを押さないと設定が確定されません。



12. 運転を開始する。

数値表示部がコースNo.を示していることを確認してください。
運転キーを押すと、 各表示部に現在の炉内温度と実行中の段階が表示され、 運転を開始します。

13. 運転終了

設定したコースが終了すると、 時間ランプが消灯し、 「焼成回数」 → 「End」 → 「炉内温度」 の繰り返し表示となります。
また、 ブザー音 （ピッピッピ音） が鳴り終了したことをお知らせします。
①上記の繰り返し表示の状態で**停止キー**を押すと炉内温度表示のみとなります。
②上記の繰り返し表示の状態で**送キー**を押すと運転していたコースの設定を確認できます。
③上記の繰り返し表示の状態で**コースキー**を押すとコースNo.を表示します。
①～③を行うと繰り返し表示はキャンセルします。
炉内温度が90℃以下になるのを待ち、 扉を開けてください。

温度が下がるまでに10時間程度かかります。

注意

- 設定した内容は電源プラグを抜いても記憶されています。 同じ内容で運転する場合はコース選択して**運転**キーを押してください。
- 温度および時間の設定間隔は1℃(分)です。
  上下キーを1回だけ押すと1℃(分)毎に値が増減し、 押し続けると早送りができます。
- 表示部がコースNo.を示していないと運転は開始できません。
- 炉内温度が90℃以下にならないと扉を開けることができません。
  （扉ロック解除についてはP16参照）
- 炉内の温度が低くても、 作品及び試験物自体は温度が高い場合があります。 火ばさみや耐熱手袋を使用して取り出してください。
  （やけどのおそれがあります）
- 扉が開いている状態で運転を開始することはできません。 （E－3.0が表示されます）

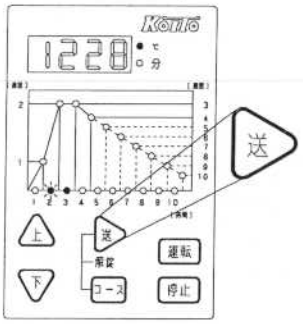
運転中の操作

1. プログラムの確認

運転中に**送**キーを押すと現在のコースNo.のプログラム内容が確認できます。
送キーを押す毎に

┌→炉内温度→時間１→温度１→時間２→温度２→・・・→時間 10→温度 10┐

の順番で設定値が確認できます。



注意

・運転中は プログラムの変更はできません。

また、 運転中に**コース**キーを押すとコースNo.の確認ができます。 コース

プログラム内容およびコースNo.確認の状態で 10 秒間キー操作がなかった場合、 自動的に炉内温度、 実行中の段階の表示状態に戻ります。

2. 運転の中断

運転を途中で止めたい時は、 **停止**キーを押してください。 停止

注意

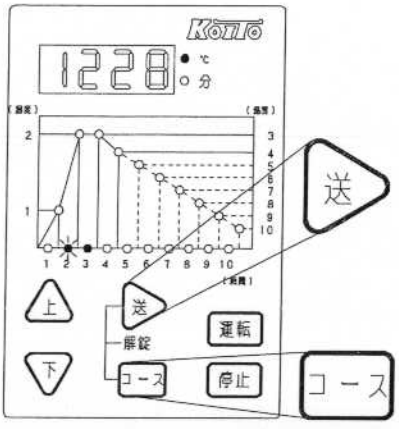
・中断したプログラム位置からの再開はできません。

3. 扉の解錠

コースキーを押しながら**送**キーを押すと運転中でも扉の解錠が可能です。
（操作後５秒間有効、 この間はランプが点滅します）

注意

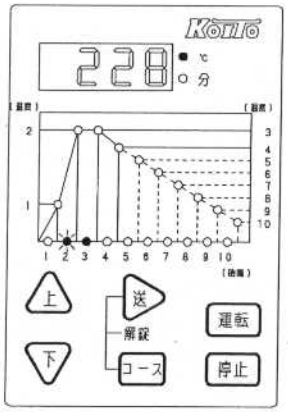
・運転中の炉内は高温になっており大変危険ですので、
非常時以外は使用しないでください。
・解錠中はプログラムの進行は中断します。
・解錠中はヒータはＯＦＦします。



時間延長機能について

時間１～１０を運転する場合、 各時間に設定した時間内に炉内温度が 「各温度設定値－5℃」 以上に達しない場合は、 自動的に時間が延長されます。
時間延長があったコースは、 終了後に「送」キーを押すことにより延長時間が表示されます。
（炉内温度→時間１→延長時間１→温度１→時間２→延長時間２→温度２→・・・→時間１０→延長時間１０→温度１０）
延長時間は点滅します。

延長時間の限度は各時間に設定した時間の３倍までです。 それを超えると 「E－4.0」 が表示され停止します。
（例えば、 時間２＝180分と設定すると、 設定温度に達するまで、 時間２は最大540分まで延長されます）
延長があった場合は、 各時間のランプが点滅します。
下図は、 時間２延長後、 時間３を実行している状態です。



停電リカバリー機能について

焼成中に停電が発生した場合、 停電が解消した後で 「運転」 ボタンを押すことにより停電発生時に運転していたステップの最初から運転を開始することができます。
また、 停電が解消した後で 「停止」 ボタンを押すと停止状態となりますので停電リカバリー機能はキャンセルされます。

例） 停電発生時にステップ３ （時間３） を運転だった場合に、 停電解消後 「運転」 ボタンを押すとステップ３ （時間３） の初めから運転を再開します。

焼成回数表示機能について

運転していたプログラムが正常に終了した場合、 数値表示部に焼成回数を表示します。
「焼成回数」 → 「End」 → 「炉内温度」 の繰り返し表示となります。
焼成回数はプログラムが正常に終了した場合に１カウントします。

空冷ファンについて

本体の下部に取付けられている空冷ファンは、ケーシングの表面温度が高温になるのを防ぐ役目をしています。
次の内容を理解した上でご使用ください。

1. 空冷ファンのON

電源プラグをコンセントに差し込むと、 ケーシングの温度によって自動的にON/OFFします。

2. 空冷ファンをOFF（コンセントから電源プラグを抜く）して良い条件

運転終了後、炉内温度が90℃以下になってから電源プラグを抜いてください。
（炉内がまだ高温の時に電源プラグを抜くと、ケーシングの表面温度が上がり危険です）

3. 空冷ファンに関係したトラブル

- 空冷ファンが正常に動作しなかった場合や、炉内温度が９０℃より高い時、 電源プラグをいた(停電した場合も同様)場合に、ケーシングの温度が上昇し、安全装置が作動する場合があります。
- 安全装置が作動中は、電源プラグを抜き差ししても「Ｅ－２.1」「Ｅ－２.2」が表示され、操作部のキー操作ができません。
  その場合は、空冷ファンを回したままケーシングの温度が下がるのを待って電源プラグを抜き差しし、「Ｅ－２.1」「Ｅ－２.2」の表示が出ないことを確認してください。
  (電源プラグを差し込んだままでは、安全装置が解除になっても、自動復帰しません。電源プラグの再差込が必要です。)

電気炉のお手入れ

- お手入れは、 必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
- 外側はかたく絞ったぬれぶきんで拭きとってください。
  （クレンザーや中性洗剤などの洗剤を使用すると、 本体を傷つけますのでおやめください。）
- 炉内の清掃は、 掃除機などでほこりを吸い取ってください。
- 断熱材の清掃は行えません。 絵具や溶剤などは絶対にこぼさないでください。
  （断熱材を拭くなどは絶対に行わないでください。）
- 本体下部空冷ファンのファンガードの清掃は、 掃除機 ・ ハケなどでほこりを除去してください。

仕様

項　　目	内　　容
形　　式	KCA-31NA
外 形 寸 法	幅 650×奥行 560×高さ 540
炉 内 寸 法	幅 320×奥行 320×高さ 300
内　容　積	30.7 ﾘｯﾄﾙ
最 高 温 度	900℃
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ制御	10ｽﾃｯﾌﾟ
温度設定最小単位	1℃
時間設定最小単位	1分
焼 成 コ ー ス	82コース(おまかせ12,自由70)
電　　源	単相100V　50/60Hz
消 費 電 力	1320W(初期定格)
重　　量	約51 kg
電 源 コ ー ド	2.3mプラグ付
周囲使用温度範囲	0℃ ～ 40℃
安 全 装 置	炉内温度ﾘﾐｯﾀ装置，ﾊﾞｲﾒﾀﾙｻｰﾓｽﾀｯﾄ 温度ﾋｭｰｽﾞ，扉ｵｰﾄﾛｯｸ機能
付　属　品	棚板　2枚 L型支柱　150L　3個 L型支柱　90L　6個 L型支柱　60L　6個 サイコロ　4個

・この製品は、日本国内用に設計されています。海外では使用できません。また、アフターサービスもできません。
・電源は最大出力時にAC96V以上の電圧が供給できる電源をご用意ください。
・次の場合は電圧がAC96V以下になる場合があります。
その場合は十分な性能が出ませんので販売店にご相談ください。
分岐ブレーカと使用しているコンセントの間の配線が長い場合。
配線サイズが細い場合。
・15Aの分岐ブレーカから電源を供給している場合、電源電圧が高い時や、分岐ブレーカの周囲温度が高い場合にはブレーカが作動することがあります。
その場合には、20Aのブレーカに交換し、配線サイズは φ 2.6 または 3.5mm² 以上にしてください。
（電気工事店に依頼してください）
・ヒータは使用回数、最高使用温度によって性能が劣化してきます。十分な性能が出なくなった場合はヒータの寿命が考えられます。販売店にご相談ください。

定期点検

1. 電源コード・プラグが異常に熱い。
2. 電源コードに深いキズや変形がある。
3. 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
4. 普段と異なる音がする。
5. その他の異常や故障がある。

↓

直ちに電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店もしくは当社までご連絡ください。

修理を依頼される前に

警告 自分で分解 ・ 修理 ・ 改造を行わないでください。
感電や発火したり異常動作をしてけがのおそれがあります。

次のような場合は、表の内容にしたがって点検 ・ 処置を行ってください。

現象	点検および処置内容
電源が入らない	・停電していませんか？ ・配電盤のブレーカが切れていませんか？ ・電源プラグが抜けていませんか？
扉が開かない	・電源は入っていますか？（電源プラグが抜けてませんか？） ・ロックがかかっていませんか？ → 炉内温度が90℃以下になるのを待つか、解錠操作をしてください。(P10参照)
運転が開始されない	・表示部がコースNo.以外を表示していませんか？ → コースキーを押し、コースNo. を表示した状態で運転キーを押してください。 ・表示部が「E－3．0」を表示していませんか？ → 扉が閉まっていることを確認して、運転を開始してください。
作品がうまく焼けない （温度が足りない）	・運転中に停電はありませんでしたか？ → 最初から設定をやり直すか停電リカバリー機能を使用してください。
煙やいやな臭いが出る	・空焚きは行いましたか？ → 初めて運転を行う時や、ヒータや断熱材の交換後の最初の運転時には臭いや煙が出ます。また、絵具や転写紙などの種類によっては臭いや煙が出ます。
自由コースのデータが 記憶されない	・設定の最後にコースキーを押さずに終了していませんか？ →コースキーを押すと記憶されます。
運転終了時間になっても 停止しない	運転中に解錠して扉を開けませんでしたか？ →扉を開けていた時間分、運転時間が延長されます。
「E－4．0」が表示される （ピーッピッピッピッピ音が10回鳴る）	・作品や棚板をつめすぎてませんか? ・「時間」を短く設定してませんか? ・設定した最高温度まで炉内温度が到達していますか? →到達しない場合は、電源電圧降下やヒータの寿命が考えられます。販売店へご相談ください。
「E－3．0」が表示される 「E－3．1」が表示される （ピーッピッピッピ音が10回鳴る）	・扉を開けたまま運転キーを押しましたか？ →扉を閉めて運転キーを押してください。 ・選択した自由コースの設定は行いましたか？（温度と時間が全て0の設定ですとエラーとなります） →選択した自由コースの設定を行ってください。
「E－2．1」が表示される 「E－2．2」が表示される （ピーッピッピ音が10回鳴る）	・本体下部のファンガードにほこりがたまっていませんか？ →ほこりを除去してください。 ・炉内温度が高温の時に電源プラグを抜きませんでしたか？ ・または停電がありませんでしたか？ →再び電源プラグを入れ（ファンが回り、早く冷却します）2時間ほど放置した後、電源プラグを抜いて数秒後、電源プラグを入れてください。
「E－1．0」が表示される （ピーッピッ音が10回鳴る）	・炉内上面にある温度センサに物をぶつけませんでしたか？ （温度センサの故障の可能性があります） →温度センサの交換が必要です。販売店へご相談ください。 ・設定温度を上回り炉内が高温になった可能性があります。 →販売店へご相談ください。

上記のことをお調べいただき現象が改善されない場合は、 直ちに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店もしくは当社までご連絡ください。

廃棄の方法

・ 各自治体によって廃却方法が異なりますので、 自治体へご相談ください。
・ 廃棄の際は分解しないでください。 （粉じんが出ます）